

『2023年度 レフェリーの目標とビーチバレーボールの重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定するための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。

2 重点指導項目

【ファーストレフェリー】

- (1) サービス許可について
 - ・ラリー終了後、12秒以内にサービス許可のホイッスルができるよう、両チームが遅延なく準備をするよう促す。
- (2) 遅延行為について
 - ・ラリー間やセット開始前、タイムアウト・テクニカルタイムアウト終了時において、選手のどの行為が遅延の対象となるかを理解し、選手の遅延を防ぐ。
- (3) ハンドリング基準について
 - ・オーバーハンドのセットアップやハードドリブン（強打）ではないオーバーハンドレシーブについて正しく理解し、すべてのレフェリーが統一できるようにする。
- (4) 各プロトコルの的確な運用について
 - ・マッチプロトコル、ボールマークプロトコル、メディカルアシスタンスプロトコルおよびプロテストプロトコルについて、その運用方法を理解する。
- (5) 不法な行為について
 - ・選手ならびにチームスタッフの不法な行為は、毅然とした態度で競技規則を適用する。
- (6) コーチングのコントロールについて
 - ・国内の大会に適用される特別競技規則の【監督に関する規定】（ルールブック付録(1)※付則の1）を理解する。

【セカンドレフェリー】

- (1) 得点とサービス順について
 - ・スコアラー、アシスタントスコアラーと密に連携し、両チームの得点およびサービス順の確認を確実に行う。
- (2) 遅延行為について
 - ・選手のどの行為が遅延の対象となるかを理解し、積極的に選手を促しファーストレフェリーを補佐する。
 - ・選手の不測の事態（砂が口に入りうがいをさせる、サングラスが破損し交換する場合など）に対して、適切なコントロールを行う。
- (3) ネットへの接触・ネット近くの選手の反則について
 - ・ネット近くの選手によるプレーに対する妨害および相手コートに侵入した際に起こる妨害（インターフェア）の判定を正しく行う。

(4) コートスイッチについて

- ・コートスイッチの手順および取扱いを十分理解し、スムーズに行えるようにする。

【スコアラー】

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認する。
- (2) コートスイッチとそれぞれのセット終了をファーストレフェリーとセカンドレフェリーに知らせる。
- (3) 試合中、全ての罰則と不当な要求を記録するとともに、試合終了後は結果欄の記入を速やかに行う。
- (4) 記載ミスをした場合は、鉛筆で当該箇所を○で囲んで表示をする。(2重線で消さないこと)

【アシスタントスコアラー】

- (1) 常にスコアラーと声を掛け合い、サーバーの番号や得点を確認する。
- (2) ラリー終了後、直ちに次のサーバーの番号(ナンバーパドル)を示す。誤りがあれば、ブザーまたは口頭で直ちにセカンドレフェリーに通知する。